

憲法週間（1～7日）に合わせ、人権について考える「市民のつどい」（岡山市、市教委主催）が7日、岡山コンベンションセンター（北区駅元町）で開かれた。市内を拠点

に活動するLGBT（性的少数者）の自助グループ「プライド岡山」の鈴木富美子代表（54）が講演し、多様な性の在り方を理解して互いに尊重し合うことの重要性を訴えた。

## 憲法週間で「市民のつどい」



# 多様な性に理解を

## 自助団体代表 LGBT講演

鈴木代表は、倉敷市が昨年、市民モニターに行ったアンケートで約7割は当事者と会ったことがないと答えた一方、全国の約7万人を対象にした民間の2015年調査では、70％がLGBTに関する講演などがあった「市民のつどい」

・6％がLGBTに該当したことを説明。「当事者が周りにいないのではなく、見えていない、あるいは口に出せていないのが現実だ」と指摘した。

性自認や、性的指向（好きになる性）などの組み合わせによって、さまざまに「性の在り方」があると強調。その上で「一番の問題は差別や偏見。性の多様性をみんなが認め合いい、生きていくことが大切」と呼び掛けた。

主婦怒田貴代子さん（79）＝南区大福＝は「LGBTについては詳しく知るのは初めて。特別視することなく、接していくべきだと感じた」と話していた。

市民ら約700人が聴講。つどいでは、心と体の性が一致しないトランスジェンダーの女性を中心に、家族の物語を描いた映画の上映もあった。

（岡村綾乃）